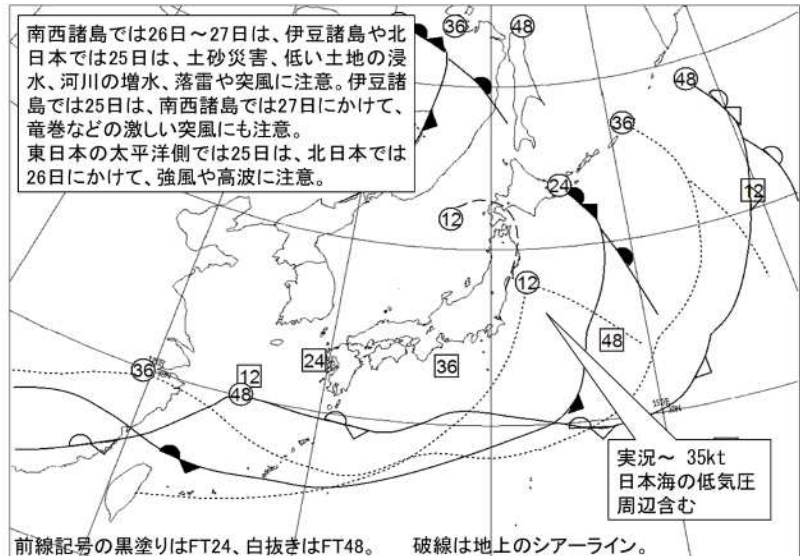


## 1. 実況上の着目点

- ① 房総半島付近にある低気圧からのびる前線が日本の南を通して南西諸島付近にのびており、低気圧や前線の周辺では多数の発雷を検知。前線近傍の伊豆諸島付近の海上では、1時間におよそ30mmの激しい雨を解析。
- ② 日本海にある低気圧が東北東進。低気圧からのびるシアーラインの影響により、日本海では発雷を検知、北日本では1時間におよそ10mmのやや強い雨を解析。
- ③ 日本のはるか東に中心を持つ高気圧と①の低気圧や前線及び②の低気圧との間で気圧の傾きが大きくなっており、東～北日本の海上では強い風が吹いており、日本海の低気圧周辺と西～東日本の太平洋側では、波が高くなっている所がある。



主要じょう乱解説図

## 2. 主要じょう乱の予想根拠と解説上の留意点

- ① 1項①の低気圧は、25日朝には三陸沖に、25日夜には閉塞しながら北海道付近に進む。低気圧や前線に向かって850hPa  $\theta_e$  336K以上の下層暖湿気が流入し大気の状態が非常に不安定となるため、伊豆諸島では25日は、雷を伴った激しい雨の降る所がある。土砂災害や低い土地の浸水、河川の増水、落雷や竜巻などの激しい突風に注意。
- ② 1項②の低気圧は25日夜にかけて衰弱しながら日本海を北東進する見込み。低気圧に向かって850hPa  $\theta_e$  315K以上の下層暖湿気が流入し、大気の状態が不安定となる。25日は北日本では落雷や突風に注意し、北海道地方では土砂災害や低い土地の浸水、河川の増水に注意。
- ③ 26日朝には華中～日本の東にのびる前線上に低気圧が発生し、27日にかけて東シナ海を東進する。低気圧の東進に伴い、前線は27日にかけて九州の南海上付近まで北上する。南西諸島では、2項①の前線や26日朝までに発生する低気圧に向かって850hPa  $\theta_e$  336K以上の下層暖湿気が流入するため、大気の状態が非常に不安定となり、雷を伴った激しい雨の降る所がある。南西諸島では、26日～27日にかけて土砂災害や低い土地の浸水、河川の増水に注意し、27日にかけて落雷や竜巻などの激しい突風に注意。
- ④ 2項①の低気圧周辺や前線近傍及び2項②の低気圧周辺では、気圧の傾きが大きくなるため、東～北日本では強い風が吹いて波が高く、北海道地方ではしけとなる所がある。東日本では25日にかけて、北日本では26日にかけて、強風や高波に注意。
- ⑤ 26日～27日にかけて、北日本や東日本を中心に黄砂の飛来が予想されている。今後、実況に留意。

## 3. 数値予報資料解釈上の留意点

- 総観場はGSM基本、量予想や降水分布はMSMやLFMも参考。
4. 防災関連事項 [量的予報と根拠] ①大雨ポテンシャル(06時から24時間)：高い所(100mm以上)はない。②波浪(明日まで)：北海道4、東北・北陸・関東・伊豆諸島・東海3m。

## 5. 全般気象情報発表の有無

「黄砂に関する全般気象情報」を6時頃に発表予定。